

## S-1 服用患者における止瀉薬・整腸薬併用処方の有無が治療継続に及ぼす影響

村上 紘世<sup>1)</sup>、田中 直也<sup>2)</sup>、緒形 富雄<sup>3)</sup>、片山 珠季<sup>4)</sup>、永野 悠馬<sup>5)</sup>、前田 守<sup>5)</sup>、長谷川 佳孝<sup>5)</sup>、月岡 良太<sup>5)</sup>、森澤 あずさ<sup>5)</sup>、大石 美也<sup>5)</sup>

- 1)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 宝塚店
- 2)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 八尾店
- 3)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 旭川医大店
- 4)(株)アインファーマシーズ
- 5)(株)アインホールディングス

【目的】 テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム(以下、S-1)は下痢の副作用が頻発するため、服用患者の QOL 維持や治療継続には止瀉薬や整腸薬等による支持療法を適切に実施することが重要となる。本研究では、S-1 服用患者における止瀉薬・整腸薬の併用経験が服薬継続に及ぼす影響を調査し、薬局薬剤師の今後の課題について考察した。

【方法】 2017 年 4 月から 2020 年 10 月に当社グループが運営する保険薬局 598 店舗に来局した S-1 処方患者 5,769 名を対象に、止瀉薬・整腸薬の処方有無により、あり群 1,704 名となし群 4,065 名に群分けし、服用継続期間を Kaplan-Meier 法及びログランク検定で比較した。また、服用期間 90 日間隔毎に、服用継続期間を目的変数、男性、65 歳以上、止瀉薬・整腸薬の有無を説明変数とした Cox 比例ハザード分析(有意水準 0.05)を行った(アイングループ医療研究倫理審査委員会承認番号: AHD-0092)。

【結果】 服用継続期間は、止瀉薬・整腸薬あり群(168 日、95%CI:161-176)の方がなし群(154 日、147-154)と比較して有意に長かった。また、Cox 比例ハザード分析では、服用期間 180 日未満で止瀉薬・整腸薬処方の有無が服用継続期間と有意に相関したが、それ以上では相関性はみられなかった。

【考察】 本調査から、服用開始初期の S-1 服用患者への止瀉薬・整腸薬処方については、服用継続期間の延長の可能性、及び、服用開始後の期間が長くなると寄与しなくなる可能性が示唆された。したがって、薬局薬剤師は服用開始初期の S-1 服用患者については、下痢症状の早期発見に努め、止瀉薬・整腸薬による支持療法の積極的な提案が重要であると考えられる。

(第 31 回医療薬学会年会(2021 年 10 月, Web)にて発表, 一部要約)